



# 営業改革推進に向けた地方銀行のチャレンジ ～HP Elite x2とシトリックスソリューションは何をもたらしたか

 岩手銀行

 北陸銀行

 はじめよう、あたらしいコト。  
鹿児島銀行  
Kagoshima Bank



地銀の経営改革が進んでいる。HP Elite x2のようなタッチ対応2-in-1 PCを活用したモビリティによって、コスト削減と効果的な営業の両立を狙っている銀行もいる。ここでは特に積極的にITを活用した経営改革を推進する地方銀行の情報システム部所属の各氏として、鹿児島銀行の吉永聡氏(九州フィナンシャルグループ 業務・IT統括部副部長)、岩手銀行の浅井田登志治氏(岩手銀行システム部 部長代理)、北陸銀行の富永英司氏(北陸銀行総合事務部システム戦略グループ長)、そして、多くの金融機関にクライアント仮想化ソリューションを提案してきたシトリックスの福永哲也氏(シトリックス・システムズ・ジャパン 通信・金融営業本部長)らに話をきいた。

聞き手 大津山 隆(日本HP パーソナルシステムズ事業本部 クライアントソリューション本部)



吉永 聡氏  
九州フィナンシャルグループ  
業務・IT統括部副部長



富永 英司氏  
北陸銀行  
システム戦略グループ長



浅井田 登志治氏  
岩手銀行  
システム部部長代理

## 地方銀行特有の課題とその克服

**大津山(HP)** 日本HPのデバイス関係のビジネス開発をしております。今日は進行役を務めさせていただきます。まず、自己紹介を兼ねてみなさんのお仕事についてうかがえますか。

**富永(北陸銀行)** 北陸銀行は富山に本店をおいていますが、非常に広域に店舗を展開しているのが大きな特徴です。北前船の伝統があるので北陸三県はもちろん、北海道にもたくさん支店があり、北海道銀行ともフィナンシャルグループを組んでいっしょにビジネスを進めています。そのほかには東京、名古屋、大阪など、地銀としてはかなり広域に営業網を持っていることとなります。これは、富山の菓売りの体質が影響しているのでしょうか、外に外にという本能があるように思います。自分自身は、北陸銀行のシステム開発を担当している北銀ソフトウェア出身で銀行に転籍したわけですが根っからのIT屋です。

**浅井田(岩手銀行)** 岩手県は北東北に位置しています。東京から物理的には遠いですが、時間的には意外と近い地域です。それと県の面積が広く、確か北海道に次いで全国2位、四国四県に届きそうなくらいです。ですから、店舗網は広く分散しています。たとえば、本店のある盛岡から沿岸の山田町までは2時間30分くらいかかります。これは、盛岡から東京までと、時間距離では同じですね。自分自身は、約10年間は営業店にいて、その後はシステム部にいます。勘定系ホストから分散システム、それから端末まで、いろいろなシステム移行やシステム化プロジェクトに携わってきました。そうしている中で、2014年にペーパーレス化対応の一環としてAndroidタブレットを導入しましたが、その更改時期を迎えたので、今回、HPのタブレットPCに入れ替えました。クライアント仮想化は外部接続環境では導入していますが、行内接続環境では導入していません。まずはデバイス単体で、

しっかりと活用していきたいという段階です。

**吉永(九州フィナンシャルグループ)** 私自身はもともと鹿児島銀行の出身なのですが、2015年に持ち株会社である九州フィナンシャルグループを設立し、それにあわせて出向しました。肥後銀行と鹿児島銀行の事務・システムを融合させて効率的な業務をめざしています。統合2年目までを協働ステージと位置づけ、2018年春からは融合ステージに入ります。偶然、両行がシトリックスユーザーでした。そのバックグラウンドをうまく活用していきたいと考えています。

**福永(シトリックス)** シトリックスは30年間近く、アプリケーションの仮想化を細い回線で実現することに注力してきました。もともとIBMの研究開発の人間がスピンアウトしてできた企業なのですが、最近はセキュリティ面での強化で採用されるケースが増えてきています。特に、タブレットなどのハードウェアが出てきた結果、営業の方が外で仕事ができるようになることをお手伝いするケースが増えてきています。

**大津山** 他の業界と比べて、かなり早い時期から地銀さんはタブレット導入やクライアント仮想化に取り組んできたように感じます。みなさんにはHP Elite x2を採用していただいています。これはPCを持ち出したいという要求が高かったということなのではないでしょうか。

**富永** 勘定系システム共同化の次は何をすればいいのか模索するなかで、収益を稼げるところに投資するということに注力しました。つまり、共同化してコストをおさえるところは徹底的におさえて推進できるところはするということです。計画をたてて2016年度から今の中期経営計画を実施することになり、それと同時に業務改革の意識も高まってきました。営業推進は収益に結びつきます。そのためにも事務を効率化しなければなりません。また、外部環境は厳しさを増す一方です。銀行ビジネスは公共性が高く、投資信託販売などではフィデューシャリー・デューティー(説明責任)

の徹底が求められており、その分野にタブレットを活用できないかという話になるわけです。この展開、実は今回が初めてではなく過去に一度チャレンジしているのですが、タブレットそのものの性能や機能、コンテンツ等が十分でなく、行外での利用が少ないという結果になった苦い経験があります。

**大津山** 現場が使ってくれなかったということですか？

**富永** その時はIT部門として、タブレットの活用はもう少し時間がかかるのではないかと考えていました。先を見通すと、在宅勤務も視野に入っていましたから、制度面での対応も必要になるのではないかと。しかし、それが実現すれば自分たちも助かるので、今回はとにかく周りの声をきくことから始めました。ユーザー目線にこだわりました。

**吉永** 仮想化については10年以上前から取り組んできました。鹿児島銀行には9ヶ店の離島店舗がありますが、天候により物流や移動が制限されること、海底ケーブル回線のため通信帯域が制限されることから、いち早く仮想化に取り組む必要がありました。

少子高齢化が進む中で、メガバンクをはじめ、従来のフルバンク型の店舗形態を再考する時期にきています。ネットバンキングやフィンテックなどを活用し、サービスを劣化させることなく、新しい形態のフルサービスを提供する必要があると考えています。タブレットをはじめITを活用することで、ロケーションに制約されない、より質の高いサービスをお客様に提供できると考えています。

**浅井田** 当行は、大きな災害でも起きない限りは陸続きなので交通が途絶えたりすることはまずありませんが、エリアが広いので一回営業に出るとなかなか帰ってこられない地域があったりします。ですから、どこでも業務ができるような環境を作ることには必要だと考えています。

最初にAndroidタブレットを入れた時は、

限られた範囲しか業務システムにつなげませんでした。クライアント仮想化をすればよかったのですが、タブレット300台のためだけだと1台あたりのセンター側システムのコストが大きくなり現実的ではありませんでした。今回は、Windowsのタブレットなので、クライアント仮想化をしなくても、そのまま業務システムにつなげることが出来ます。それで、一部の業務用パソコンも置き換えて若干台数を増やし、先進他行さんに比べれば少ない台数ではありますが、まずは400台でスタートしています。今後は、通常の事務用パソコンなどの更改タイミングを見ながら、クライアントの仮想化対応や、今回導入したタブレットPCへの置き換えなどを検討していきます。少子高齢化などで収益が落ちる中でコスト削減をしていかなければならないので、業務ごとにデバイスを用意するのではなく、1台でいくつもの業務をすることが出来る、使う場所も選ばないタブレットPCに統合していくことで、全体の端末の台数を減らし、総合的なコストを下げることが必要と考えています。

## 既存環境とIT投資

**大津山** Androidタブレットでうまくいかなかったというのはどういうことでしょうか。

**浅井田** Androidタブレットだと、グループウェアや金融商品販売サポートシステムなど、多くの業務システムが使えず利用範囲が限定的となりました。業務システムのほとんどはWindowsを前提に作られているので、タブレットをつなごうとするとシステム毎にAndroid対応が必要となりますが、全部つなごうとするとコスト的に膨大となるので、営業支援システム(SFA)に参照系の機能を入れるくらいの範囲にとどまりました。抜本的に解決するためにクライアント仮想化も検討しましたが、これもそれなりにコストがかかるし、タブレット以外の全PCをクライアント仮想化する



タイミングでもなかったもので、その時点ではできませんでした。

大津山 Windows環境であれば、既存の環境との親和性が高いということですね。ところで、Android端末を利用されていた際は、ノートPCとの2台持ちでしたか？

浅井田 Androidタブレットの時にはノートもしくはデスクトップPCと2台持ちでしたが、今回のHP Elite x2の導入で、それを配置された者については一人1台にすることができました。

富永 うち是最初から一人に1台だけです。渉外を担当する得意先担当は1,000人くらいいて、その全員にHP Elite x2を配布しました。ワークスタイル変革で事務コストを下げないとならないということで、役員や本部の役職者にも配布しました。すると、本部の役職者からは「出張が効率的にできるようになった」といわれましたよ。出張から戻ると、デスクに未決裁の書類の山ができていたのですが、今は、出張先でも決裁ができるようになって、出張から戻って出勤したときの気分が違うといわれたのです。帰ってきたときの辛い感じがなくなったという声が聞こえてきます。それに在宅勤務(テレワーク)の試行にも銀行として取り組んでいます。まだ試行なので制約はありますが、自宅で働けるというメリットは大きいようです。



福永 哲也氏  
シトリックス・システムズ・ジャパン  
通信・金融営業本部長



聞き手 大津山 隆  
日本HP  
パーソナルシステムズ事業本部  
クライアントソリューション本部

## 働き方改革に向けて

大津山 皆さんの会社で働き方改革にはどのように取り組まれていますか。

吉永 限られた時間の中で、IT化によりデスクワークの効率化を高め、あわせて労働生産性を高めていくことを検討しています。

また、テレワークとは異なりますが、2018年4月より証券子会社がタブレットを活用した営業を開始する予定です。

福永 そう。説明を録音される証券会社様もいらっしゃいますね。

吉永 他社さんの取り組みも参考に今後、

進めて行くことになると思います。

富永 交渉記録は重要です。でも、話した内容をすべて覚えてはいただけませんから、全部音声などで記録したほうがとっとりばやいわけですよ。それをタブレットで録れば追加のコストはかかりません。

浅井田 もともとデバイスに情報を保存できませんでしたが、以前は上司の許可を得て持ち出す必要がありました。いまさら、の話ですが、今回当行でもやっと自由に外に持ち出していいということになりました。ほとんどの業務システムにつなげるようになり、かつ自由に持ち出せるようになると、当然にして持ち出して使うことが多くなり、たとえば会議に行ったときにも、待ち時間などのちょっとした合間に議事録が書けたりして時間を有効に使えるといった話になります。そうしたことから、設置されていない部署からも、自分のところにも設置してほしいとの要望が出たりしています。大事なのはスキマ時間にも仕事ができる環境を作ることなのだと思います。スキマ時間を活用できれば、仕事が早く終わり、帰る時間も早くなります。

ちなみにデバイスを自宅に持ち帰ることもできるのですが、使った記録が残ってしまうので、残業や労働時間管理の問題があります。基本的に今は在宅ワークを認めていないため、客先などの外出先で通常の勤務時間内で使用する、という運用としています。自宅への持ち帰りについては、お客さまの都合で夜間に訪問し、遅くなったので営業店に戻らずに自宅に直帰するケースなどになります。

福永 ある保険会社様でクライアント仮想化を入れることにより、在宅勤務が可能になって女性の産休、育休取得で役に立ったというお客様がいらっしゃいました。

吉永 当社ではHP Elite x2をシンククライアント専用機として利用し、端末にデータを残らないよう制限することで、セキュリティを確保しています。

福永 最近は、タブレットの画面に本来は映るはずがない他の顔が映ると、自動的に

ボカすようなシステムもあるようですね。  
吉永 クライアント仮想化で実現した時間や場所に依存しない環境を使って何をすることが重要になると考えます。その環境を活用し、テレワークを実施する場合も、どのような業務に適用するか見極めが重要になると考えます。

## テレワークの現実と理想の狭間で

大津山 女性の働く環境の向上についてはいかがでしょう。

浅井田 確かなことはわかりませんが、当行の女性の役員や管理職の比率は他行や他業態と比較して低いような気がします。今は、産休や育休、介護休暇などがありますので、出産や育児、介護などを理由に退職する方も少なくなり、長く勤められる女性も増えてきました。比例して管理職などへの登用も進んできていると思います。当然ながら、優秀な女性には長く働いていただき、活躍していただく方が会社のためにも良いと思います。在宅勤務の仕組みについては、特に介護などの場合は男女関係なく有益なので、人事部署の方針にもよりますが、システム部署としてはシステム面の環境は整えていきたいと思っています。

福永 うちの社員全員に持ち出し用の端末を配布しています。女性管理職が半分くらいでしょうか。最近では、介護などで在宅勤務する社員も目立ちます。

実は、先日、ガンのステージ3で入院した管理職の女性がいました。幸い、無事に復帰したのですが、病院でも自分の端末を持ち込んで仕事をしていました。仕事をする事で自分の生きがいを感じ、必ずがんを克服するという意思を維持できたそうです。そういう社員もいるということを考える必要があります。

富永 テレワークを使うケースはさまざまあり、育児や介護の際にも活用できますが、例えばケガなどの療養中の際にも実は利便性が発揮されます。私が所属するグループ

のメンバーにも需要はあるようですが、勤務時間の話をしているうちはテレワークはなかなか進まないのではないのでしょうか。テレワークをしたときに通常の勤務時間分の仕事をしていないといけないとか、自宅でやったことを報告するようにするとかしている会社があると聞いたことがあります。違和感があります。会社で勤務したら報告はいらぬのにテレワークでは報告しなければならないということでは利用者側は制度を利用しにくいはずですよ。

大津山 現実と制度の間にギャップがあるということですね。

富永 実態面でテレワークをやりたいと思っている人がたくさんいるのに、そのメリットが得られなくなっているのは残念です。私自身は在宅勤務をやってもよいのですが、実際にはやっていません。介護もない、育児も落ち着いた、家も近い。だから必要ないのです。そうじゃない人はたくさんいるのもったいない話です。

福永 ある損保会社様の方から相談を受けたいことがあります。彼らは業務システムをクライアント仮想化しているのですが、自宅で仕事をしたときに、その接続時間を記録しています。次のステップとしてどんなパッケージが流れ、どんなアプリを使っているかなど、自動でそれが記録できればと、検討中のような感じです。

富永 すごく違和感がありますね。業務がきちんとできていればそれでいいし、そもそもそのシステムへの投資費用がもったいないじゃないですか。

福永 働き過ぎていないかをチェックしたいらしいです。セキュリティの目的もあるのでしょうか。

大津山 昨今は、雇用が難しくなっているような声も聞こえてきますね。そこに最新のIT環境を備えた働く環境というのは魅力的に映るものではないでしょうか。

吉永 優秀な人材を確保する目的でも、IT環境を備えた働きやすい環境の整備は勿論ですが、ITに関する新しい取り組みにより、魅力ある企業として評価されることも、

重要であると考えます。

**浅井田** これまで地元では、地銀は安定した職場と見られてきた面はあったかと思えます。でも、昨今は地銀が生き残っていくのは難しい時代になってきて、銀行員も勤め始めたら一生安泰、ということでも決してなくなったと思えます。IT環境の整備も大事ですが、実際の会社の中味、つまりどういう人たちが働いているのか、なにをやっているのか、などのソフト面に魅力を感じないと優秀な学生は入ってこないかもしれませぬ。

**富永** 日本HPさんとテレビコマーシャルを作ったときに、それをお客さまから「見たよ」といわれました。当然うれしいですよ。これから入ってくる学生、すでに働いている人が、「この銀行がんばっているぞ」と感じていただけたのではないのでしょうか。地域のために何をやって、どんな創造的なことをやっているか。結局、最後はそこだと思います。

## タブレット導入がもたらすもの

**大津山** HP Elite x2やシトリックスの仮想化ソリューションの使い勝手はいかがですか。

**吉永** シトリックスを選んだのは、レガシーなアプリから、最新のアプリまで幅広く対応しているためです。また、ピンチインやピンチアウトに代表されるタッチ操作の最適化に関する最新機能に対応するスピード感も評価している点です。

**浅井田** Androidタブレット導入の際は、タブレットだけ仮想化するのも費用対効果が出なかったため仮想化せずに導入しました。その後、Androidタブレットの更改時期になりましたが、それまで使っていたドコモの閉域網を継続利用することを前提に、ドコモのSIMを入れることが出来るWindowsタブレットPCとしてHP Elite x2を選んだという経緯です。パソコンとしての使い勝手もかなりいいので、段階的に営業店に設置してきました。ローカルの

SSDにOSやMicrosoft Officeソフトはインストールされていますが、Windows 10 IoT Enterpriseでエンベデッド対応をしてユーザーデータを本体に保存できないようにし、シンクライアント端末化して使っています。センターサーバーを立てて完全なシンクライアントにしなくても、少ない台数でも一台あたりのコストはそれほどあがらないし、使い勝手も悪くありません。あと、本体のハードウェアも丈夫なところがいいですね。

**大津山** セキュリティを担保する上で閉域網はやはり欠かせないのですか。

**浅井田** 社内はWi-Fiで行内LANに接続しますが、アクセスポイントはステルス化しています。また、外出して社内Wi-Fiが切れると、閉域網につながるように設定しています。外の公衆Wi-Fiや自宅の無線LANルータなどにはつながりません。業務システムはブラウザベースがほとんどですが、一部、ペーパーレス会議などはネイティブアプリを使っています。また、Microsoft Officeソフトはローカルで動いています。ファイルを作成・修正した後の文書などは、ローカルには保存できませんが、ネットワークドライブに保存することができます。完全なシンクライアントではありませんが、認証システムとの合わせ技で、情報については保全されています。

**大津山** Microsoft Officeソフトなどでは厳密にはテンポラリーでいったん内蔵SSDにデータが保存されますが、最終的にはローカルに残さないという仕様なのですね。

**福永** その場合のファイル保存はどうされていますか。

**浅井田** 全行で使っている統合ファイルサーバーを、ネットワーク経由で使えるようにしています。また、外からでも閉域網経由で社内と同じように使えるようにしています。

**富永** 2011年の5月にWindowsデスクトップ環境の仮想化を導入しました。勘定系の共同利用システムへの移行と情報系を同時に変えたのですが、移行をカンタン

にしたかったからです。その時点で、将来はデバイスを外に持ち出すことも視野に入れていました。勘定系の移行が優先だったので、VMwareのVDIでWindows XPが稼働するようにしていました。

そのVMwareをシトリックスにかえたのは、タブレットでの使い勝手や操作性が良かったからです。

タブレットに関しては評価対象として4機種の中からHP Elite x2を選びました。実は評価中にシトリックスに不具合が発生したのですが、すぐに直してもらえたので、今後も何かあればすぐに対応してもらえるだろうなという期待もありました。

いずれにしても、タブレットは、ITだけで決めてはだめだと思っていました。ですから、この4機種を並べた品評会をエンドユーザーを呼んでやりました。最終形のインプリメントをした実機を置いて本店、本部の行員に自由にさわってもらいアンケートに回答してもらいました。

実は一等賞は同点で2機種ありました。傾向として、女性ユーザーは軽くなければならないというのが強かったですね。全体のいろんな評価があって、画面の大きさ、電池の持ち、頑丈さ、キーボードのしっかり作られているところなどに注目しました。展示会でエンドユーザーの声を聞いて「なるほど」と思ったのは、店舗に出先から戻ったときに外部ディスプレイにつなぐのですが、そのインターフェースがHP Elite x2が採用しているType-Cケーブルだと1本ですむ点です。他の機種はたくさんの配線があり、なかには端末の両サイドにケーブルを接続する端末もあり場所をとるんです。ですから、ケーブル1本だけというのはとても評価が高かったです。

結局、半日の品評会で、数百人の投票が得られました。投票が紙というのはなさない話で集計には時間がかかったのですが(笑)、みんなの関心が高かったことが実感できました。

最初に1,700台購入して、次に50台、そして今、2,050台になりました。すべて仮想化して

使っています。スタンドアロンではセキュリティの問題が残ってしまいます。ローカルに何も無いから安全という建て付けです。

**大津山** 手書きのためのペンはどうでしょう。

**富永** ペンも書き味がよくなってきているようですから、保険商品の販売などでは来年は仮想化のままで電子サインなどもやってみるつもりです。また、ペーパーレス会議などでは役員を含め配布資料にペンでメモを書いている人が多いようです。

**吉永** 当社ではすでにタブレットでの電子サインを取り入れています。電子サインとカメラでの撮影については、ローカルのセキュアブラウザにまかせ、それ以外の機能を仮想環境で処理させることで解決しました。

**富永** うちですべて仮想環境で処理することを目指しているのですが、指ならいいのに、ペンだとうまくいかないケースがあります。スムーズに書いてタイムスタンプとGPS情報がとれればいいだけなのですが、もうちょっとかかりそうです。

**福永** 2018年の3月には直るはずですからもう少しお待ちください。端末によってちょっとずつ違うのが相性なのか仕組みなのかがよく調べないとわからないというのも理由です。

**吉永** カメラの制御でHP Elite x2 で正常に動作しないケースに直面しましたが、HPさんに迅速な解決策を提示して頂きました。

**大津山** 確かにカメラのサポートがうまくいかないことがありましたね、HPIは、相性の問題や機能改善を開発にフィードバックするようなことがちゃんとできている法人向けのサービスを提供できるメーカーです。ですから、細かいところの要求をフィードバックすれば必ず改善されます。ご指摘いただいた問題も、特にシトリックスとはR&D含めた連携が密なので、開発同士で連携しながら問題解決することができました。

**大津山** 実際のタブレットの導入で苦労されている点などありますか？

**富永** 結局前回2011年にクライアント環境

を入れてからほとんど変えていなかったのですが、今回の一連のタブレット、クライアント仮想化環境の導入でデスクトップOSもMicrosoft Officeソフトも一気にレベルアップした感があります。もちろんユーザーのとまどいはあったかもしれませんが、かつてはPC環境の使い方の研修などしたことはなかったのですが、今は臨店して研修をやっています。

**浅井田** Windows 10 IoT Enterpriseのエンベデッド化のマスターイメージを固めるのに時間がかかりました。最初は、動作検証をしては直し、を繰り返しました。また、Windows 7とWindows 10の操作感の違いもあったので、ユーザー教育として研修まではしませんでした。詳細な手順書は作りませんでした。今は、HP Elite x2だけがWindows 10で、他のパソコンはWindows 7ですので、OSは混在状態です。そろそろWindows 7のパソコンの更改時期なので、Windows 10にする際はクライアントの仮想化とタブレットPCの拡大を検討したいと思っています。

**大津山** ブラウザは何をお使いですか。

**浅井田** IE11です。業務システムの多くが、まだIEをベースとして作られているものが多いので、Edgeブラウザへの移行はまだ先になりそうです。

**吉永** 対面営業をお客様にタブレット画面を見てもらいながらすることになりました。その際、より分かりやすい説明を行うために、ピンチイン・ピンチアウトは必須要件であると考えました。

**福永** みなさん、OSやアプリのバージョンアップというのは動き始めたら基本的にはしないというのが方針でしょうか。

**福永** 米国の銀行などではすぐに更新してもらえるのに、日本はなかなかそうならないのが悩みどころです。

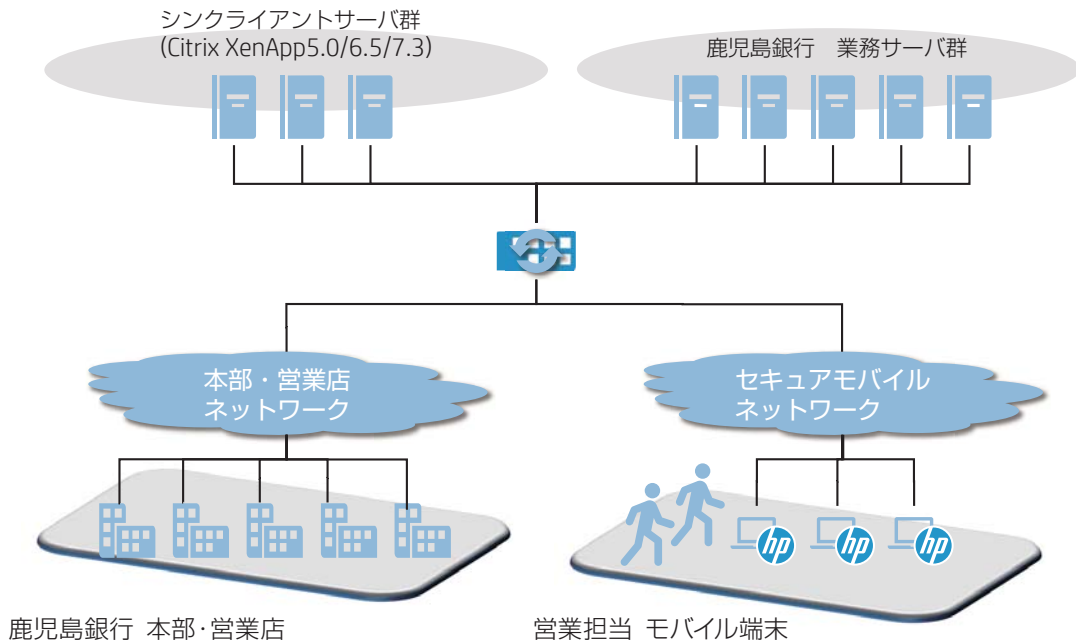
**富永** われわれは旧システムでは業務システムへの影響とコストを考慮し、今回のシステム導入でバージョンアップしていく方針に転換しました。最新のサービスを得られるならバージョンアップするという







## 鹿児島銀行様システム構成図



ことです。仮想化基盤のインフラとして採用しているベンダーのニュータニックスがそれを教えてくれました。彼らの提供しているインフラはバージョンアップを前提とした構成であり、コストもさほど必要としません。だから考えを変えることにしたのです。そうじゃないと保守料を払っている意味がないじゃないですか。

**浅井田** 当行のようにエンベデッド化して書き込み保護などをしていると、一旦保護解除をしてバージョンアップし、その後にも書き込み保護設定するといった作業が必要になります。ですからOSなどの脆弱性対策が必要なときは、一旦デバイスを送ってもらって設定して送り返す、といったことになります。作業が煩雑なので、よほど変更しなければならない理由がないかぎり、基本的にそのまま使います。

**吉永** まずは、即効性の高いサーバでの対応を検討し、それにあわせ必要があれば端末の設定変更を行います。

## HP Elite x2導入がかなえた 営業改革

**大津山** 導入後の様子はいかがでしょう。

**浅井田** 画面サイズが10インチのAndroid端末だったのがHP Elite x2になって画面サイズも大きくなりました。だいたい見やすくなり、業務効率が向上したと好評です。そうはいつでもデスクトップ機よりは画面が小さいので、デバイスを配った当初は、特に年配の人を中心に見えにくくてつらいという声も少しはありました。ただ、最近は、そういう声も聞かなくなったので慣れてきたのかなとも思います。また、外でどこでも使えるということで、本部行員で出張や臨店が多い人には好評です。最初は、高いからあまりたくさん台数を買うなといていた人が、追加で設置してほしいということもあります。好評な声が多いので、台数等の拡大に向けて検討していきたいと考えています。

**大津山** デスクでは外部ディスプレイを接続

することはあるのですか。

**浅井田** 今時点では、そこまで考えてはいないですね。今は、ほとんど預かり資産渉外の人が使っているのも、外で使うことが多いと思います。ただし、今後、内部事務や本部事務を主に担当する人にも配布するようになると、そういう使い方を考える必要があると思います。

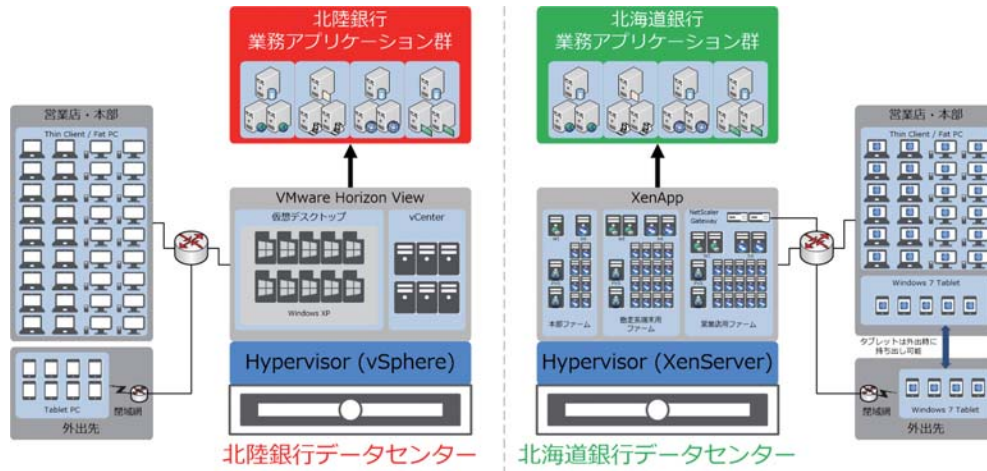
**富永** 本体を充電できるモバイルバッテリーを利用したいという声が多いですね。銀行員はカフェで仕事をしないので充電できる場所がありません。

HP Elite x2は導入当初は重いとはよくいわれましたが、今ではあまりいわれないので許容範囲のようです。手続きなく持ち出せて、LTEも入れたのでどこでも使えます。その結果、会議はペーパーレスが前提となり、少しずつですが紙の印刷枚数など着実に減ってきています。

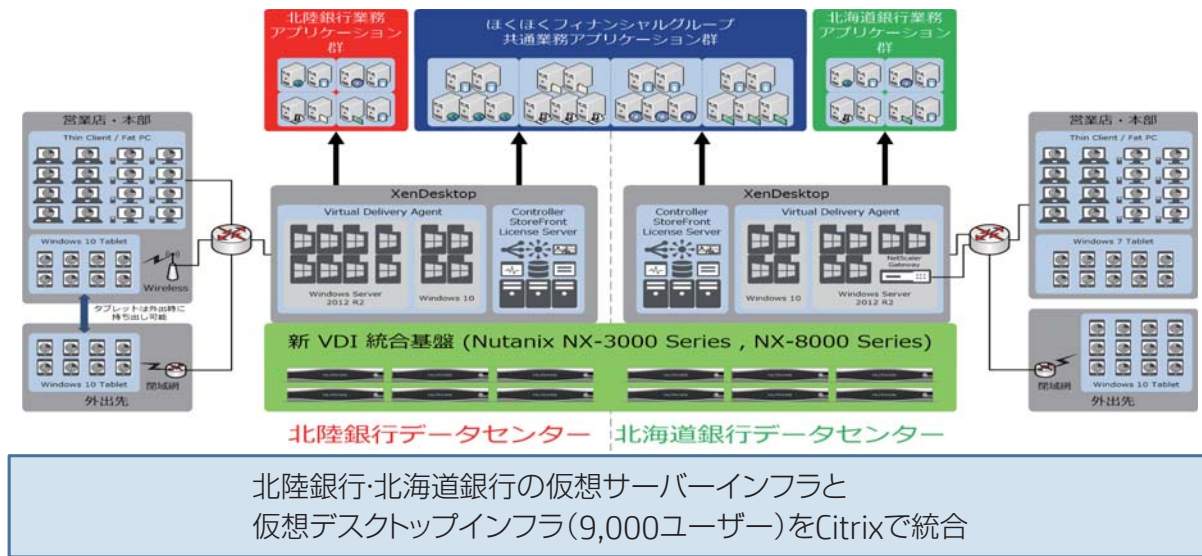
**大津山** ペーパーレスのコスト効果はどうですか。

**富永** 私自身で一か月に50枚程度しか

## VDI基盤導入の歴史 – 両行のVDI基盤



## VDI基盤導入の歴史 – 新VDI統合基盤

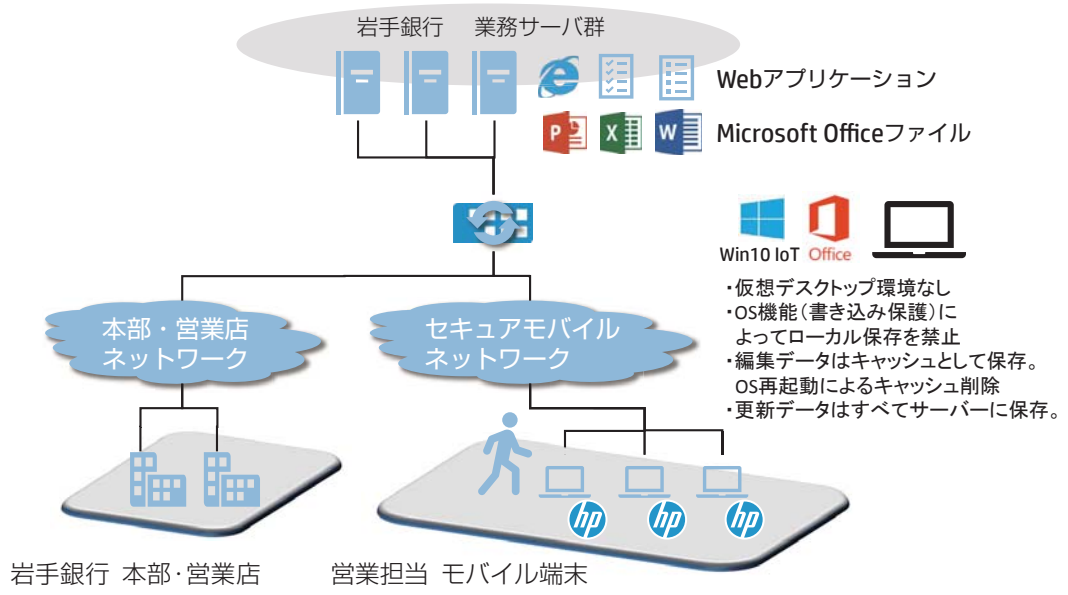


印刷しません。月にたった12枚なんて人もいます。1,000枚以上印刷される人がいますが「何をしたのか」と言われるほどです。仕事のスピードは5倍くらいになりました。社内決裁に3週間かかっていたのが3日できるというイメージですね。また、経営層からの「使いこなす」というメッセージが後押しになったこともあります。ようやく

使い方に習熟してきたので、次は、「使い倒す」というフェーズに入っていくといったところですよ。  
吉永 個別の銀行ではタブレットをどう活用し、効率性を上げていくか検討しています。持ち株会社では仮想環境とシンクライアント化したHP Elite x2をロケーションフリーに幅広く活用し、効率性を確保しています。

九州フィナンシャルグループでは、鹿児島銀行、肥後銀行、持ち株会社全てシトリックスを利用しているため、同一の端末でセキュリティを確保しつつ、各社のシステムを安全に利用できる環境を構築しています。将来的には、これらのノウハウを地元の企業へ提供できないかと考えています。  
大津山 今日はありがとうございました。

岩手銀行様システム構成図







#### 株式会社 岩手銀行

代表 代表取締役会長 高橋真裕  
代表取締役頭取 田口幸雄  
本店 盛岡市中央通一丁目2番3号  
設立 昭和7年5月2日  
資本金 120億89百万円  
従業員 1,472人



#### 株式会社 北陸銀行

代表 代表取締役会長 麦野英順  
代表取締役頭取 庵 栄伸  
本店 富山市堤町通り1丁目2番26号  
設立 昭和18年7月31日(創業明治10年)  
資本金 1,404億円  
従業員 2,770人



#### 株式会社 鹿児島銀行

代表 代表取締役社長 上村基宏(現 鹿児島銀行 取締役頭取)  
本社 鹿児島市金生町6番6号  
設立 明治12年10月6日  
資本金 181億30百万円  
従業員 2,192人



#### シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社

本社 千代田区霞が関3-2-1 霞ヶ関コモンゲート西館 23F

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ  
**0120-436-555** 月~金 9:00~19:00 土 10:00~17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承ください。  
本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。  
記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。  
記載事項は2018年2月現在のものです。  
© Copyright 2018 HP Development Company, L.P.

